

広島

HIROSHIMA



2008(下)

ペ

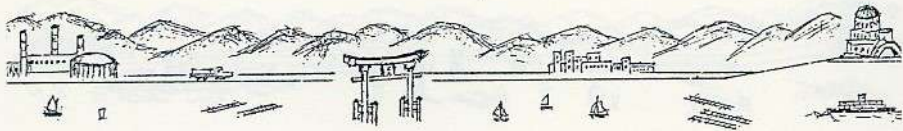
ン

HIROSHIMA

2008(下)



広島ペンクラブ

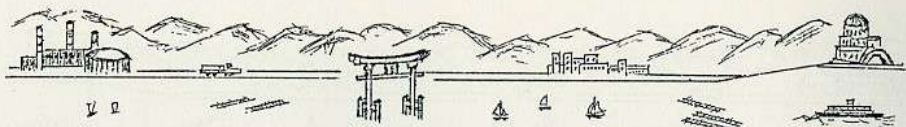


《目次》

大木	茂	遺稿	広島の新緑を尋ねて	1
原	時彦	文彦遺文		2
高橋	昭博	今さら「戦艦大和」でもあるまい		3
足立	柳子	流れ		4
花井	隆爾	御室桜と九重ざくら		5
碓井	静照	日本古代史を思う(19)		6
吉村	良哉	そして誰も		7
久村	敬夫	小豆島		8
由田	千鶴子	十一代目市川海老蔵		9
赤松	和彦	労研饅頭		10
田中	康夫	旅ゆけば……(8)梅雨じめりの地獄の沙汰も		11
菅原	京子	能「胡蝶」の彩り		12
今泉	ただし	青春18きっぷ		13
板倉	昭子	蘇堤		14
天瀬	裕康	年末年始、演劇雑記		15
務中	昌己	風呂談義		16
大谷	美奈子	湯たんぼの落とし穴		17
舛井	寛一	ハンガリーの美女(上)		18
加田	佳子	畏敬の念		19
新本	稔	神殿入り		20
平岡	豊恵	圧巻の富士		21
平塩	清種	過ぎし日と来し日々		22
高橋	博暢	旧ユーゴスラビア巡り		23
世木	田寛子	コラーゲンがほしい		24
小笠	邦久	そば考(その十一)		25
稲田	公子	白庭の桜		26
大谷	育平	慈悲の鐘声		27
山根	興哉	陶芸講師の役割		28



川村	毅	一枚のポスターから	29
夏目	康文	再びの西安	30
木村	進匡	一人前の医者	31
山口	隆子	チャップリンの秘書は広島県人だった	32
新川	貞之	日本画の大家	33
亀井	一夫	晴耕雨寝	34
土屋	孝子	母のこと(その十) 麦一升	35
田中	博	殿、変わります 未来館設立	36
渡辺	玲子	横山美智子追想	37
吉村	馬洗	春旺ん	38
上田	みどり	たくましい子どもの育成をめざして	39
長谷川	是求	「ことば」の不思議さ	40
川畑	蘇楽	供養の街・呉(二日会)	41
森田	繁昌	何も起こらない でも何かが起こっている	42
熊田	幸子	春の月	43
垣内	稔	今、残すべき遺産・口承文芸Ⅱ 口承伝承その(5)	44
竹田	朝子	ほほどに	45
大下	徳也	最近の作品づくりから	46
千葉	佳子	オペラを創る	47
谷本	直隆	愛犬ティナ	48
久保田	秀男	「富士」は日本一の山	49
大和	喜久男	「笑い」の研究(8)	50
廣田	健吾	時空の壁	51
前原	美穂	鶴の海をみる山	52
永田	稔衛	私の想い	53
吉中	康磨	怒られて、嬉しかった	54
正木	嗣鵬	中国渡来人の書(5) 黄檗の三筆 木庵	55
中下	毬子	中国渡来人の書(5) 黄檗の三筆 木庵	56
豊嶋	睦	相浦海兵団回顧	57
寺尾	邦昭	県民の交通マナー	58
新田	和雄	美しい国	59



片柳	寛	借曲	誕生日	60
中尾	建三	コノハナノサクヤヒメ		61
袁	葉	百聞不如一見		62
山岡	強	漢詩先生(其の一)		63
井岡	裕昭	人生賛歌		64
小杉	篤雄	広島女子大最後の卒業式		65
上田	由美子	一本の柿の木		66
石井	康隆	謙虚さを持つ勇氣		67
佐々木	健	太田川再生への道		68
小島	哲	出会い(その一)		69
山本	節子	陽光の夢		70
川堀	耕平	藤部隊の十九年兵(一)		71
保手濱	神龍	運甓居を訪う		72
三上	寿磨子	垣間見る大韓民国		73
小野	文孝	別離		74
佐藤	蘭花	「彌」ものがたり		75
伊勢	眞介	我が街 広島(八)		76
籬	かほる	地下の金庫室		77
井上	哲一	「春の風物詩」としての黄砂		78
北川	建次	宇品界限		79
梶川	咸子	春のうららの		80
松村	誠	ニューデリーを走る		81
村上	通明	しぐれ桜		82
佐藤	伊佐雄	小学生の一言から生まれた作品		83
阿部	律子	故里		84
玉井	田泰	MUST & WANT		85
東堂	光教	聖湖		86
児玉	光禎	瀬戸内海、極寒の釣り		87
江川	政昭	還曆に思うープロフェッショナルとは		88
西村	哲郎	建設コンサルタントに従事して思うこと(一)		89
難波	紘二	スキピオの涙		90



福田康彦	マールフィーの法則の検証	95
横山邦治	大連流連足掛け十年(二)	94
迫田勝明	ある脳神経外科医の嘆き	93
高橋昭三	苺食ふ	92
寛義之	風来山人	91

広島ペンクラブ規約

編集人記	99
表紙の言葉	98

■表紙題字/大木 茂	■目次カット/渡辺 晋
■扉/新本 稔	■ギャラリ/正木 嗣鵬
	■浜崎左髪子

イニシュモア(アラン諸島)の夏

赤松和彦(あかまつかずひこ) 油彩10号

紙 昭和二年(一九二七)旧朝鮮平安南道生まれ。広島大学病院を経て、広島市中区袋町に精神神経科メンタルクリニック赤松医院を開設し、現在に至る。
 油彩画は日展評議員新延輝雄画伯、銅版画・リトグラフなど版画は友安啓子先生に師事。

○仁田一也	100	○高陽ニュータウン病院	100
○広島経済大学	101	○新本クリニック	101
○西日本日中旅行社	101	○木村神経科内科	102
○川堀病院	102	○平安堂梅坪	103
○長崎病院	103	○山陽吟社	104
○中尾鉄工所	104	○平塩清種	105
○横田安楽堂	105	○天瀬裕康	100
		○日本基準寝具	101
		○マスカン	102
		○創生俳句会	103
		○堀川病院	104
		○今村石材	105